



古文書をビッグデータへ —OCRが拓く歴史研究の新地平—

戦国武将の書状の発見は今でも続き、我々の知る歴史は少しずつ変わっています。日本には、現代人がいまだ誰も目にしていない膨大な古文書が眠っていますが、従来、専門家が文字通り紐解き、自らの目で読むしか歴史を知る手段がありませんでした。

この状況が、今、大きく変わりつつあります。通常は活字のテキストデータ化に使われる「OCR」技術は、手書き文字にも応用され、近年、古文書のテキスト化も実用レベルに達しつつあります。

神戸大学計算社会科学研究センターでは、大同生命保険株式会社からの委託を受け、大同生命の源流である江戸時代の豪商「加島屋」から伝わる膨大な古文書のデジタルアーカイブ化に取り組み、2025年からは「古文書OCR」による検索システムの構築を進めています。

膨大な古文書が検索可能になれば、これまで人間が読み解くペースでしか変わらなかった歴史が、大きく変わります。それが、どのような可能性と課題をもたらすのか。本シンポジウムでは、その最先端を紹介するとともに、歴史学、社会科学、資料編纂の異なる観点から議論します。どなたでもお気軽にご参加ください。

2026
10.1木 14:00-17:00
受付開始 13:30

会場：神戸大学百年記念館（神大会館）

<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/campus-life/general/access/rokko/rokkodai2/>
※地図内102番の建物が会場です

主催：国立大学附置研究所・センター会議
共催：神戸大学計算社会科学研究センター／大同生命保険株式会社／RIEBセミナー

お問い合わせ：
神戸大学計算社会科学研究センター附置研センター会議シンポジウム担当
fuchikencenter-3rd@rieb.kobe-u.ac.jp



ハイブリッド開催
参加費無料

対面：先着250名
オンライン：先着250名

参加登録フォーム（9/24締切）

<https://www.ocans.jp/kobe-u?fid=JNXSX950>



参加ご希望の方は、上記URLもしくはQRコードより参加登録入力をしてください。9月25日(金)～30日(水)にZOOMウェビナーの詳細等をご案内予定です。また、シンポジウム当日は公共交通機関をご利用の上ご来場ください。最寄りのバス停（神戸市バス36番「神大文理農学部前」）からは下部地図内、青色の線に沿ってお進みください。



プログラム

総合司会：朝山 くみ（フリーアナウンサー）

14:00-14:05 **開会挨拶**
大川 剛直（神戸大学 副学長〔デジタル化担当〕）

14:05-14:10 **挨拶**
大江 紀貴（大同生命保険株式会社 執行役員）

14:10-14:15 **シンポジウム趣旨説明**
高槻 泰郎（大阪大学大学院経済学研究科 教授／
神戸大学経済経営研究所 リサーチフェロー）

14:15-14:55 **「歴史学におけるAI・計算機・人間の協働」**
小風 尚樹（人間文化研究機構本部人間文化研究創発センター 特任准教授／
〔兼任〕国立歴史民俗博物館研究部 特任准教授）

14:55-15:25 **「古文書OCRによる検索システムの構築と活用」**
上東 貴志（神戸大学計算社会科学研究センター センター長・教授）

15:40-16:50 **ラウンドテーブル『OCR技術の可能性と課題』**
司 会：高槻 泰郎
アシスタント：朝山 くみ
登壇者：上東 貴志
小風 尚樹
村 和明（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）
吉田 一正（大同生命保険株式会社コーポレートコミュニケーション部 社史担当課長）

16:55-17:00 **閉会挨拶**
上東 貴志（神戸大学計算社会科学研究センター センター長・教授）



登壇者紹介 ※プログラム順



高槻 泰郎（たかつき やすお）

大阪大学大学院経済学研究科 教授、神戸大学経済経営研究所 リサーチフェロー。専門は日本経済史。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。主な著書に『近世米市場の形成と展開』（名古屋大学出版会）、『大坂堂島米市場』（講談社）などがある。研究活動にとどまらず、NHK連続テレビ小説「あさが来た」の資料提供・時代考証を担当するなど、メディアや社会連携を含め幅広く活動している。



上東 貴志（かみひがし たかし）

神戸大学計算社会科学研究センター長・教授。専門は経済理論、マクロ経済学、計算社会科学。計算社会科学会・副会長、IEFS Japan 会長、『Journal of Computational Social Science』および『International Journal of Economic Theory』の編集長。歴史研究や、画像認識や検索システム関連の特許取得もするなど、国際的・学際的な研究活動を行う。



小風 尚樹（こかぜ なおき）

人間文化研究機構本部人間文化研究創発センター特任准教授／（兼任）国立歴史民俗博物館研究部 特任准教授。東京大学大学院人文社会系研究科西洋史学専門分野博士課程を経て、キングス・カレッジ・ロンドン大学院デジタル・ヒューマニティーズ修士課程を首席で修了。著書に『データサイエンスが拓く歴史学』（大月書店）など。



村 和明（むら かずあき）

東京大学大学院人文社会系研究科 准教授。博士（文学）。専門は日本近世史。公益財団法人三井文庫主任研究員を経て現職。主に17～18世紀の天皇・朝廷や豪商三井家进行分析対象とし、権力構造の変遷や大組織の制度化過程の特質について、史料論・アーカイヴズ論とも関連づけながら研究を展開している。主な著書『近世の朝廷制度と朝幕関係』（東京大学出版会）、『皇位継承』（共著、山川出版社）など。



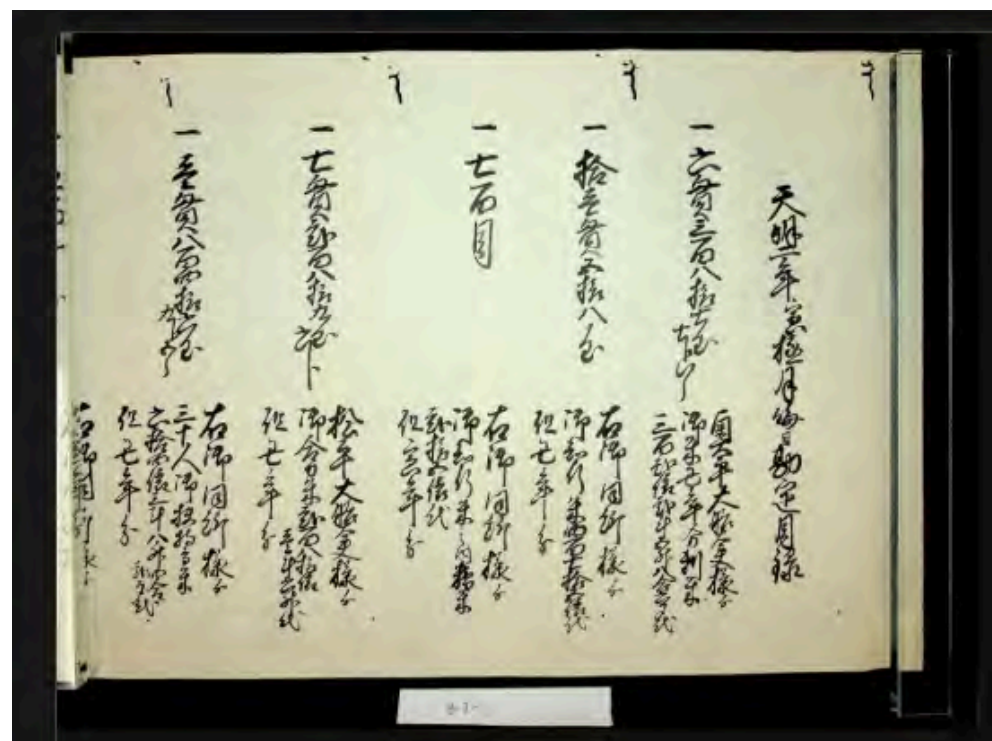
吉田 一正（よしだ いっせい）

大同生命保険株式会社コーポレートコミュニケーション部 社史担当課長。立命館大学文学研究科（博士前期課程）修了。歴史番組制作、広告代理店を経て、2021年大同生命に入社。大阪本社での広報業務に携わり、加島屋および創業者の一人である広岡浅子に関する調査・広報を担当。



朝山 くみ（あさやま くみ）

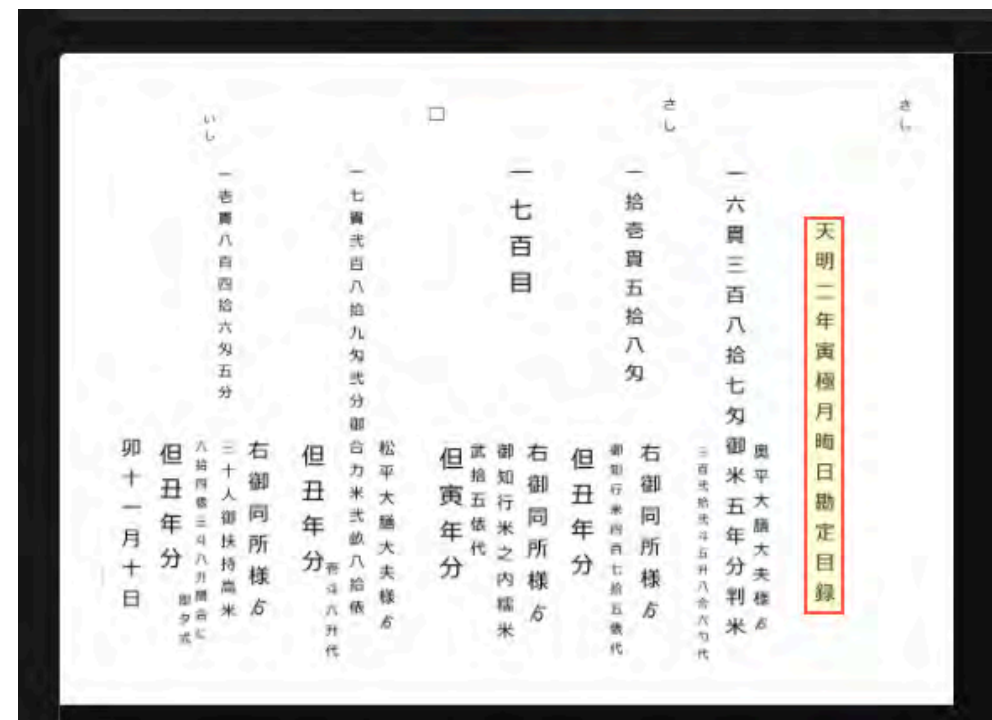
1999年 神戸大学経済学部卒業
東海テレビ放送、NHK大阪放送局で数々の番組を担当し、アナウンサーとしてのキャリアを積む。
現在は3人の娘の母として、日々丁寧に暮らすことを心かけている。



<史料画像>

「天明二年寅極月晦日勘定目録」（大阪大学経済史・経営史研究室所蔵「大同生命文書」B3-1）

大坂の豪商、加島屋久右衛門（廣岡家）に伝来した、天明2年（1782年）1月から12月までの決算簿。収益費用の部・資産負債の部からなる。



<OCR 画像>

虫損箇所を文字と認識していたり、数字の「弍」を「武」と認識するなどの誤謬も見られるが、表題や数字など、主要な部分について、相当な精度で読み取れていることが分かる。（NDL古典籍OCRを利用）